

後発医薬品使用促進の取り組みの経過と患者が後発品を希望しない理由

今井文子 田中桂

ファルマやまがたひまわり薬局



【目的】国の医療費抑制策のため、平成 20 年より後発品調剤において加算がつくようになった。後発品を使用する事は、実際に患者の負担金が減るというメリットがあるが、薬局にとっても改定に対応しないと、経営に関わってくる問題でもある。後発品について患者に理解してもらい使用を促進することは、薬剤師の役割でもある。これまでの後発品使用促進の取り組みの経緯を報告し、また患者が後発品を希望しない理由を調査し、今後の対応に取り入れる事とした。

【方法】平成 26 年 4 月 1～30 日までの 1 ヶ月間、渡薬時に改めて後発品希望についての意思を確認し、4 月受付件数 3078 件のうち、変更を希望しない 151 名の患者から理由を聞き取りした。

【結果】後発品を希望しない理由

① 飲みなれたものがよい	58人
{ 今までどおりのほうが安心だから 今までずっと同じ薬のんでいるのでこのままでよい 気分的（気持ちのうえで）に変えたくない	
② 薬が変わると効かなくなるような気がするから	20人
{ 体に合わないといけないから 体調が変わると悪いから	
③ 以前後発品服用した時合わなかった （錠剤が大きくてのめなかった。シップ使いにくかったなど） 効果がなかったような気がした	20人
④ ずっと服用していて症状安定しているので変えたくない	12人
{ いま服用、使用している薬が体にあっているので変えたくない 大切な薬（心臓の薬）なので変えたくない	
⑤ 先生が出したものがよい	10人
⑥ 本人でないのではわからない	7人
⑦ 後発品について理解できない	6人
⑧ 後発品にしてもさほど金額が変わらないため	4人
⑨ 長くのむことになれば考える	3人
⑩ 値段安いので効かないのでは	2人
⑪ 会計ないので変えなくてよい	2人
⑫ アレルギー体質のため変えたくない	2人
⑬ 先発品で効果でているため	1人
⑭ 薬の作り方が違うと聞いた	1人
⑮ 剤形の違い（OD錠のほうがよい）	1人
⑯ 家族に反対されたため	1人
	計151人

【考察】患者への聞き取りから上記の理由があがった。③の以前後発品を服用した時合わなかったというものに眠剤、シップが多かった。眠剤は形状、色、シートのデザインが変わると「全然効かなかった。」と訴え、元の先発品に戻す場合が何件かあった。またシップは使用感の違いでA商品のシップで抵抗感を示すと、B商品の後発品を準備しても「シップは変えたくない。」と言われてしまうことが多かった。また中には少数ではあるが、先発品で効果が出ているため、薬の作り方が違うと聞いた、値段が安いので効かないのでは、という理由もあった。これまで比較表、後発医薬品についての説明シートなどを用いて説明してきたが、薬剤師の説明がまだまだ不足していると受け取られる理由もあった。当薬局は高齢の患者が多いため、視覚的に訴える推進ツールを作成し活用した。





【まとめ】実際ツールを使って後発品を勧めてみたところ、今まで通りがよい、本人でないとわからない、もう少し考えてみるなど希望されない人もいたが、後発品に変更してくれた人もいた。

一度後発品を勧めて希望されない人は断る人が多かったが初めての人は興味を示してくれて反応がよかった。

後発品使用率を上げるため、当薬局では薬局内の調剤数量を算出し、使用量が多いもの、薬価差が大きく患者の会計へ反映が大きい後発品を選択、準備し、声かけを行った。後発品希望の患者の処方箋に個別に対応する事は、在庫管理の手間も増え、また不動在庫になりかねないというリスクがあった。品目をしぼる事で患者への細かい要望には応えられないが、薬局側の負担は少なくなる。このようにして後発医薬品調剤率平成 24 年 4 月 36.85% (後発医薬品数量 236423500 / 全医薬品数量 641484190)と、後発医薬品調剤体制加算 3、**19 点**を算定する事が出来た。その後も徐々に推奨品目を増やし後発品 45 品目となった。平成 26 年度改定で算定方式が変わったが、6 月から後発医薬品調剤体制加算 2、**22 点**を算定始めた。7 月の後発医薬品調剤率は 67.11% (後発医薬品数量 310320750 / (後発医薬品のある先発医薬品数量 + 後発医薬品数量) 462355350) である。